

# ふるさと奥尻通信

平成27年10月31日  
奥尻町教育委員会発行  
事務局：01397-2-3890

海洋研修センターと稲穂ふれあい研修センターにて無料配布しています。奥尻町役場ホームページからもダウンロードできます。

## 巻頭言

「天災」と「人災」という言葉があります。この両者が交わると、被害が倍増したり、大惨事になると言われます。天災時の備えや行動次第で、その結果が大きく変わってくるということでしょう。

## 特集 奥尻島災害史

奥尻島は古来より自然災害が数多く発生してきました。地理的に見れば、四方を海に囲まれるため、風雪や波浪が強くあたりますし、平野部が少なく、河川によって開かれた若干の平地に人家が密集しています。そのため、水害や火災などが発生すると、集中的な被害を受けてしまうのです。時系列に列記してみます。

北海道立総合研究機構地質研究所の試掘調査によって、古くは3000年前の津波の痕跡が見つかり、その後約2500年前、西暦500年～600年頃、1200年頃に大きな津波が島を襲ったことが確認されました。そのほか、945年には北朝鮮の白頭山噴火による降灰、寛永17(1640)年には北海道駒ヶ岳噴火による降灰があり、一時的に島は無人となった可能性があります。その後、享保9(1724)年に奥尻の神威山が崩落し、クズレ岬が形成され、寛保元(1741)年7月には松前町の松前大島が噴火し、本島に降灰。山体崩落により津波が発生し、日本海沿岸の旧熊石町(現八雲町)や乙部町などで津波被害があり、1467名の犠牲者がでています。奥尻にも津波が押し寄せたことでしょう。



十四号台風罹災者義損品配布所 昭和29年か



台風18号で屋根が飛んだ奥尻小学校 平成16年



奥尻大火で焼け野原となった奥尻市街地 昭和38年5月

行政的な記録によると、島の人口が増えていった明治時代以降、火災がたびたび起きています。明治37(1904)10月27日：戸長役場が失火により全焼し、同42(1909)年2月には茶津尋常小学校でも失火が発生。その後、昭和7(1932)年12月30日には青苗で大火が発生し、34軒が消失しました。

戦時下では、昭和15(1940)年8月2日に積丹半島沖地震で津波被害があり、漁船20艘余り流失。M7. 5、対岸の乙部町で震度4を観測しました。昭和18(1943)年8月10日に漂着した機雷爆破作業で民家・小学校に被害が発生、戦後も同22(1947)年10月1-2日に稲穂で竜巻発生や、同29(1954)年9月26日の有名な洞爺丸台風により稲穂小学校が大破し、島内で死者4名を出しています。

また、昭和30年代後半は大規模災害が続き、同37(1962)年8月3日の台風9号被害。同38(1963)年5月27～28日には奥尻大火により149世帯が全焼し災害復興土地区画整理を行いました。同年9月16日には追い打ちをかけるように集中豪雨が 발생して塩釜川が氾濫、赤石では山津波が起きて、死者・不明9名、全壊30棟の被害が出ました。

昭和40～50年代はたびたび異常低気圧による風水害が発生し、昭和56(1981)年9月3～4日：台風18号の奥尻全島の集中豪雨災害、さらには昭和58(1983)年5月26日の日本海中部地震の津波により青苗地区で死者2名、全壊5棟、13億余の被害額を出し、青苗岬には4.5mの防潮堤が造られました。

平成5(1993)年7月12日の北海道南西沖地震で死者行方不明者198名の大被害、平成16(2004)年9月7～8日の台風18号災害では奥尻小の屋根が飛びました。



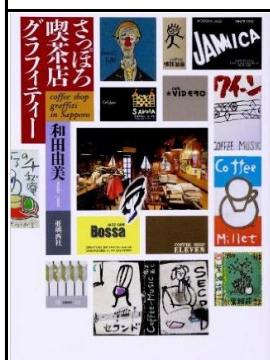
日本海中部地震の津波被害 昭和58年5月



北海道南西沖地震津波後の火災 平成5年7月13日  
鎌倉照夫奥尻航路標識事務所長(当時)撮影



青苗港の荷揚場で、女性たちが刺し網からホッケを外している風景です。刺し網は海中に網をしかけ、そこを通過した魚が編み目にエラが引っかかり、逃げれなくなったのを引き上げます。網にからまっている魚を手作業で取り外し、今度は網を伸ばして片付けます。どちらも手間のかかる作業です。4月か5月の春のホッケ漁シーズンの風景でしょう。手前に写る木箱は、地元で「れっと箱」と呼ばれている魚など海産物を入れて運ぶ箱です。奥に見える船は、松江港所属の第三初松前丸と書いてあります。荷揚げに来たのでしょう。



学芸員オススメの一冊をご紹介します。本は海洋研修センター図書室で借りられます。

さっぽろ喫茶店グラフィティー  
和田由美 亜璃西社

学生街の喫茶店、って歌ありましたよね。このヒット曲のおかげで似たような店が増えたとか。私なんかは「すすきのサンローゼ」に高校時代に初めて入って、その後、去年の閉店まで通いました。喫茶店の雰囲気としては、やはりやや薄暗く、コーヒーやタバコの香りが漂い、時に洋食のいい匂いがするみたい。そんな店を探してみたいか？

月刊 奥尻のつり 10月号

待望の秋・冬の磯釣りシーズンがやってきました！例年ですとまだ水温が高く、フグに悩まされることが多いのですが、今年は小さいフグがあまりいないようです。そのかわりに20cmを超える立派なフグが泳いでいて、ビックリします。地元では、料理して食べている人もいたり。磯釣りがメインの島の学芸員は、調査目的で島の東海岸の武士川に出かけたそうで、根魚であるソイやハチガラが釣れたものの、カレイはまだ早く、11月中旬以降だろうとのこと。鍋にすると美味しいカジカもそろそろくるよ、と意気込んでいました。奥尻港のパーライト積み出し岸壁の角では、サバやイワシなどを釣る人がみられます。時折回遊してくるところを確実に捕まえるには、やはり毎日足しげく通わないといけませんね。

昭和奥尻生活詩 新谷清二の鳥賊つけ1ヶ月 第2回

釣石尋常小学校高等科二年生 文集「島の子」第八号より  
 やをよ 行るねま一鳥して海ま帰かくだは帰ら  
 す建り※っんばっ今賊てい昔だっらな。カっ藤今 七月  
 いてもカてだ又て日に来た取来たくい俺ゲて谷日 十九  
 。て豊ゲ見がカ来他出た。りて。るとはは来敏は 九日  
 住か：る、ゲたのる。一をい兄筈思もさて雄終 十九日  
 みな島せ今にが人か兄時濟な三なうっい君業 日  
 込漁の一日行、達一に間まか人のてそばたが式 日  
 お場西と船く俺もと一ばしっ来で、ろり。へだ へ日  
 次。で海言を事達力聞今かてたて急兄、駄藤カ。 日  
 回冬夏岸っ下にはゲい日、。いいがカ目谷ゲ学 曜  
 へは場。たるな鳥かた俺草島母たで今ゲだ君〜校 日  
 つはは東。しっ賊ら家取ではが家日もそのかに 日  
 づ時番海 ててっし兄のり働早父にカうう話ら 日  
 く化屋岸 いか は船をいくは ゲま で た

い役で津はい心ブま名修で  
 まな、波青て構レしの旅函十月  
 しど負が苗研えした生行館二  
 たに傷発岬修とを。徒がラ二  
 。分者生をし実行毎・行・十  
 か、し会て際っ年先わサ日  
 れ救た場いのて、生れーく  
 て護とにま行、防方、ル二  
 訓者の、す動災災が約高十二  
 練、想地。例害口来一校二  
 を誘定震今に時！島九の日  
 行導と年つものルし〇研ま



イヌとパンダとネコの競争です！

たのしを日航しで対自た青行祭  
 。声て見頃空で、空衛が苗わで十月  
 援走せの自も休演隊、コレ、月  
 をるてト衛ら日習のちして毎十  
 多風くレ官い中が島よスイ年日  
 く習れ！もまの行外うでまマは  
 集がま二毎し隊わ部ど開すラ、  
 めあすン年た員れ隊こ催。ソ奥  
 てりがグ参。にてにのさ今ん尻  
 い、の加地もいよ時れ年大町  
 ま沿仮成し元参たる期まは会体  
 し道装果、の加の地にし、が育

マラソン仮装大会？

なす。でるななねけ引す一十  
 り、よれの。るいが、ケ月今年  
 に釣ソうばで石とて、月五年の  
 出りワにな、炭消しちく日の  
 費用ソなる痛手せまよらでスト  
 が具ワつほい当なてついた。ブ  
 かやしてど出はく。：悪。いつ昨  
 さエてき、費十。一。か。つ。は  
 みサおま魚に。月ま一風た年点  
 まもりすが。月ま一風た年点  
 すそまの釣寒かす度邪んよ火  
 れれくらつをでりは

うしコ中し年訪は七八館は穂  
 努てしでた同れ勾・二と、の五月  
 力、ナは。様た玉八九な十歴月  
 し入し新全のこづ月名り月史より  
 て館をた体入とくののまい民り開  
 き減け展入者あ体光館た。ば資館し  
 たに示島数り観入しつ俗館し  
 いなや者と、者し。が今で展て  
 であど体がなほもズあ年冬示い  
 すぬ考験減りぼ多ンり度期室た  
 。よ慮るま昨くに、は休 稲



開基100年記念の枡 昭和53年

新茶之記録(編集後記)

稲穂ふれあいセンター終了